

＜乙女文楽とは？＞

日本を代表する伝統芸能「文楽」から生まれました。昭和の初めに文楽の人形遣い五世桐竹門造らが始めて人気を博しました。文楽では男性3人が1体の人形を操るところを人形の仕組みに工夫を施し、1人が1体の人形を操る「一人遣い」の形式です。また女性のみで演じるのも特色です。

＜出演：ひとみ座乙女文楽＞ ～川崎市地域文化財～

創始者桐竹門造の直弟子である桐竹智恵子師に50年前から教えを受けてプロとして活動する一座です。師の他界後は、文楽の人形遣い桐竹勘十郎師の指導を仰ぎ、国内外で公演し高い評価を得ています。地元川崎市での活動にも力を入れ、中原区を中心に小・中学校や老人施設での上演、「乙女文楽教室」など、さまざまなプログラムを開催しています。2018年に川崎市地域文化財に認定されました。

■演目紹介

「よしつねせんぼんざくら みちゆきはつねのたび義経千本桜」道行初音旅

源平合戦の英雄、源義経は合戦後に兄頼朝に追われ流浪の身となり恋人の静御前は義経を探す旅に出ます。そして奈良の吉野山中にさしかかると、従者の佐藤忠信とともに、義経と杉田源平合戦の模様を語りあうのでした。しかしこの忠信には、ひとつの秘密がありました・・・満開の桜の下で繰り広げられる、華かで幻想的な物語です。



「しんじょうあわのなるとしんれい傾城阿波の鳴門」順礼歌の段

大阪の町はずれに、十郎兵衛とお弓の夫婦が住んでいます。夫は元阿波の国（徳島県）の武士。主家の宝刀が紛失したため、幼い娘を残して旅に出て、今は盗賊となって刀の搜索を続けています。ある日、その家を順礼の娘が訪れます。三歳のとき別れた、夫婦の実の娘でした。お弓はそれと気づきますが、盗賊となった身で、娘に禍が及ぶのを恐れ、心を鬼にして名乗らずに帰すのでした。切ない母娘の情愛を描いた人気演目です。



《会場アクセス》

会場：川崎市総合自治会館ホール

川崎市中原区小杉 3-600 コスギサードアヴェニュー4階

JR 武蔵小杉駅・東急東横線・東急目黒線

武蔵小杉駅 徒歩5分



※お客様へのお願い

- ・ご来場の際、マスクの着用をお願い致します。
- ・発熱、咳など体調に不安のある方はご入場をお断りする場合があります